

病害虫発生予察情報

東京都病害虫防除所

向こう1か月（11月）の予報

〒190-0013 立川市富士見町 3-8-1

平成24年度 予報第7号

Tel 042-525-8236 Fax 042-529-0943

<http://www.jpnpn.ne.jp/tokyo>

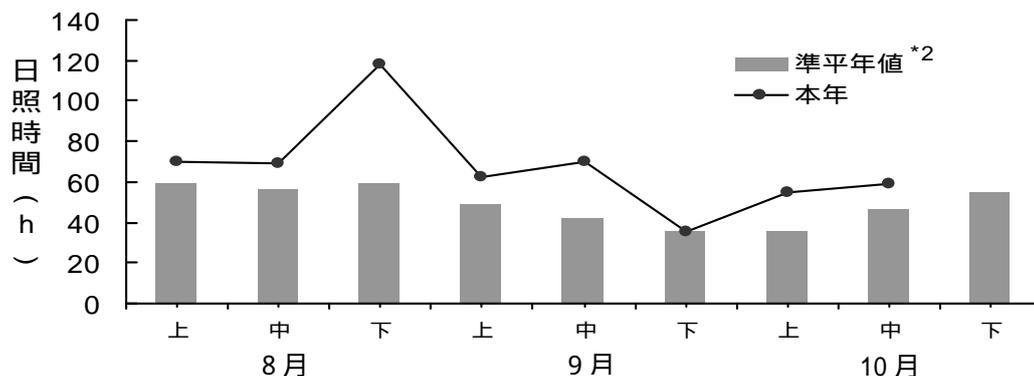
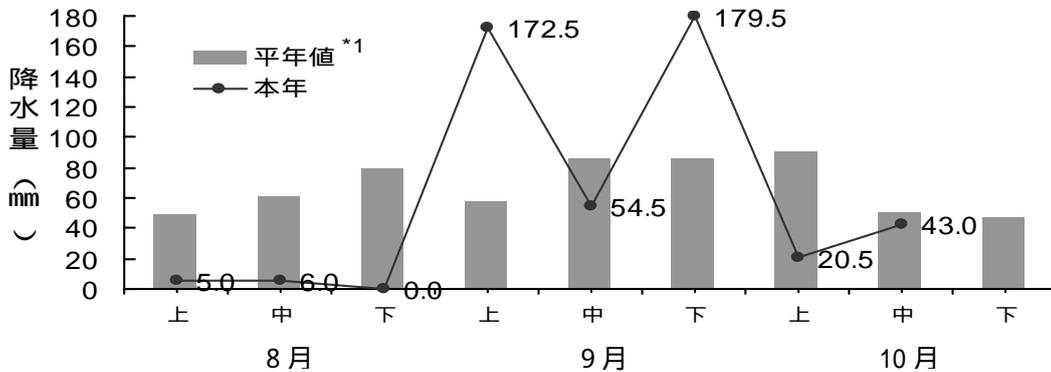
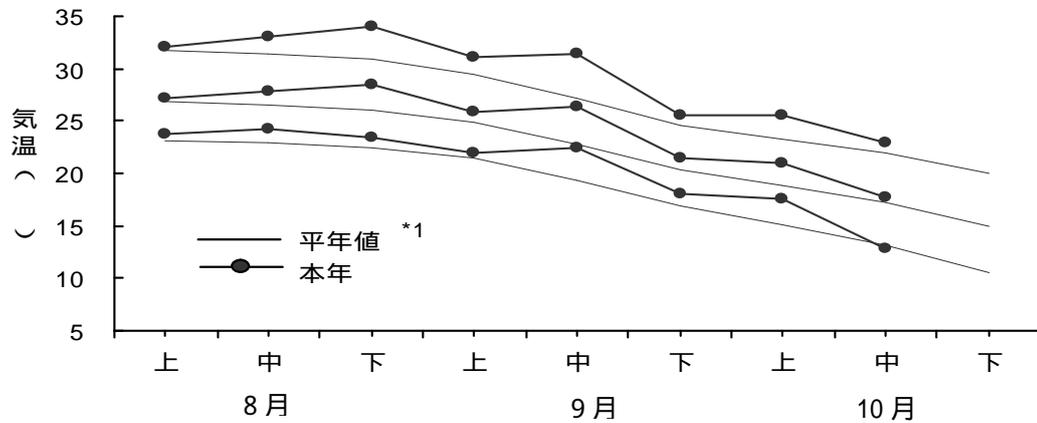
e-mail: S0200303@section.metro.tokyo.jp

【気象予報】2012年10月19日 気象庁 地球環境・海洋部発表，関東甲信地方の1か月予報より

確率	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	30	40	30
	降水量	40	30	30
	日照時間	30	30	40

月の前半は，気温の変動が大きいでしょう。

【気温・降水量・日照時間の経過】 平年値及び準平年値と本年の10月中旬までのデータを示した。（東京都府中市 気象庁気象観測所データ）



*1：1981-2010の平均値，*2：1987-2010の平均値

ハダニ・ホコリダニ類の防除時期です！！

10月の定期巡回調査において、シクラメン等にホコリダニ類の発生が平年よりやや多いことが確認されています。また、施設イチゴのハダニ類は11月までの防除が適切に行われると、春以降の害虫管理が楽になります。

一度発生すると急速に繁殖します。高密度になると防除が難しくなるため、圃場を良く観察して、早期発見、早期防除に努めましょう！

被害が大きい葉や株等は除去し、寄生部位にかかるようにいねいに薬剤散布を行いましょ。う。

薬剤抵抗性の発達を防止するため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行いましょ。う！

野菜の病害虫

1. キャベツの菌核病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

1) 巡回調査では現在の発生は各地とも少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

1) 天候に留意し、防除指針に従い予防的に防除する。

2) 薬剤の散布にあたっては、収穫前使用日数に注意する。

3) 罹病株は翌春の発生源となるので、早めに処分する。

2. キャベツ、ブロッコリーの黒腐病、黒斑細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では現在の発生は各地ともやや少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

1) 防除指針に従い予防的に防除する。

2) ブロッコリーは黒腐病に感受性が高いので今後の発生に注意する。

3. ハクサイの軟腐病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

1) 巡回調査では現在の発生は各地とも発生は少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

1) 本病は気象条件によっては11月中旬頃まで発生する。

2) 発病してからの防除は手遅れとなるので、薬剤の収穫前使用日数に注意し、予防的に防除する。

4. コマツナ、カブの白さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

1) 巡回調査では各地とも発生はやや少ない。(-)

2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)
防除上考慮すべき事項

- 1) 密植を避け、施設では過湿に注意する。
- 2) 防除指針に従い防除する。

5. ネギのさび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 防除指針に従い初期防除に努める。

6. アブラナ科野菜のコナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) フェロモントラップにおける誘殺数は少ない(-)
- 2) 巡回調査では全般的に発生は少ない。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。
- 2) 収穫後の残渣の処理を徹底して行う。

7. アブラナ科野菜のアブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では全般的に発生は少ない。(-)
- 2) アブラムシ類は各種ウイルス病を媒介するが、各地とも発病はやや少ない。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 作物ごとに防除指針に従い防除する。
- 2) 薬剤に対する抵抗性が発達している場合があるので、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。

8. ホウレンソウのシロオビノメイガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 予察灯への成虫の飛来はやや少ない。(-)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(+)

防除上考慮すべき事項

- 1) 寒冷紗などの被覆資材により侵入を防止する。

9. ホウレンソウのモモアカアブラムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では発生は少ない。(-)
 - 2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(+)
- 防除上考慮すべき事項
- 1) 防除指針に従い薬剤を散布する。

10. トマトサビダニ(施設)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、トマトにおける発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 今後、春の増加期に被害を出さないため、防除指針に従い防除する。

. 花きの病害虫

1. シクラメンのホコリダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- 1) 巡回調査では、各地とも発生量はやや多い。(+)
- 2) 気象予報によれば、気温は平年並と予想される。(±)

防除上考慮すべき事項

- 1) 花蕾や新葉の奇形を確認したら、10倍以上のルーペ等で観察するか、不明な場合は病害虫防除所や普及センターに相談する。

. 野菜および花き類の共通病害虫

1. 灰色かび病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

- 1) 巡回調査では各地とも発生は少ない。(-)
- 2) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 施設内の過湿に注意し、罹病株や罹病残渣を施設内に放置しない。
- 2) 防除指針に従い初期防除に努める。
- 3) 薬剤耐性菌の発達を避けるため、数種類の薬剤によるローテーション散布を行う。

2. オオタバコガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- 1) 巡回調査ではトマトを始め、各種作物で発生は少ない。(-)
- 2) フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い。(+)
- 3) 気象予報によれば気温は平年並、降水量は少ないと予想される。(+)
- 4) 年間の発生消長は今後減少に向かう。(-)

防除上考慮すべき事項

- 1) 果菜類の幼果や花き類の蕾を好むので排泄糞に注意、被害果や花蕾を放置せず、速やかに処分する。

